

コロナ対策 国の交付金で 32億4500万円の8月補正予算成立

西宮市は、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、総額 32 億 4500 万円の 8 月補正予算を編成。8 月 7 日開催された臨時市議会で可決、成立しました。

予算は、1、更なる感染予防対策の実施 2、全力で雇用や経済活動、市民生活を支える 3、「新しい生活様式」の確立に向けた取り組み の 3 つの柱で構成されています。以下、主なものを紹介します。

感染予防対策 では……

- 学校を含む公共施設のトイレ手洗い場の自動水栓化 (275 施設対象。1 手洗い場につき 1 か所。学校は同 3 か所)
- 学校の手洗い場 (トイレ除く) の蛇口をレバー式専用水栓に交換 (1 学校に 10 か所を基本に、小中高幼稚園で)
- 学校を含む公共施設に換気のための網戸設置 (学校は既決予算で。その他 137 施設が補正予算の対象)
- 民間保育所等児童福祉施設の自動水栓化や網戸設置等に支援 (1 施設当たり 30 万円)
- 避難所となる学校体育館等 (66 施設) に換気扇設置
- 介護、障害者サービス事業所・施設に減収補填と、PCR 検査費用の補助 (1 施設当たり 30 万円。行政検査対象外とされる検査費用 2 万円上限)
- アミティーホール、なるお文化ホール、中央、北口、鳴尾各図書館に座席抗菌加工や体温検知カメラ設置

雇用、経済、生活支援 では……

- 離職を余儀なくされた人を市の会計年度任用職員 (パートタイム) として雇用 (20 人程度。9/1~3/31)
- キャッシュレス決済を活用したポイント還元 (市内店舗での購買に 20~25% のポイント還元。10/1~12/31。詳細は未定だが、4 億円の還元を予定)
- 商店街・小売市場等のお買い物券またはポイントシール事業に支援 (20% 以内のプレミアム還元。県が 2/3 補助)
- 持続化給付金・家賃支援給付金申請の支援相談会 (パソコン操作を苦手とする事業者丁寧に)
- 新生児特別定額給付金の支給 (特別定額給付金の支給基準日翌日の 4/28~12/31 に生まれた新生児を対象に、一人 5 万円。3000 人見込)
- 里帰り出産が困難となった妊産婦への育児支援 (民間事業者等の提供するホームヘルプ等育児支援サービスの利用料補助。1 回 1 万円。月 4 回限度で半年間)

市の「コロナ関連情報」の広報依頼に協力し、近く「しんぶん赤旗」に折り込みます。ご理解ご協力をお願いいたします。

「新しい生活様式」に向けて……

- 芸術文化公演再開支援・実演芸術公演支援 (市民ホール使用料の半額減免。1 公演につき上限 30 万円支援)
- 障害のある児童生徒のための教育デジタル化対応の特別入出力支援装置の整備 (顎スイッチなど)
- 行政サービスの各種申請手続きのデジタル化、市税キャッシュレス決済導入など

PCR検査拡充もため 市長に緊急要望

日本共産党西宮市会議員団は 8 月 7 日、石井市長に新型コロナウイルス感染防止策についての緊急要望書を提出、懇談しました。

(裏面に要望書)

全国各地で感染が拡

大しているさなか、政府は何の手も打たず、「Go To キャンペーン」をおこなっている中で、日本共産党の志位和夫委員長は 7 月 28 日、安倍首相に対し感染震源地 (エピセンター) を明確にし、PCR 等検査を大規模に拡充することなどの緊急申し入れを行いました。今回の党議員団の申し入れは、国のみならず自治体を動かす市民的な運動を起こそうとの提起に応えたものです。

申し入れには山本健康福祉局長 (コロナ対策室長兼務)、同室の菅梅参事も同席。7 月以降の西宮での患者は重症・中等症者は少なく若い人が多い等、全国と同様な傾向にある、情報発信では工夫がいるなどと語られました。また、国への検査、診療の公費請求事務が煩雑で人手がとられている、簡素化して欲しいなどの要望も出されました。



石井市長 (右) に要望書を手渡すまつお議員と、左に佐藤、野口、ひぐち各議員

西宮市長
石井登志郎様

2020年8月7日
日本共産党西宮市議員団
団長 まつお正秀

新型コロナウイルス感染防止対策についての緊急要望

新型コロナウイルスの感染急拡大は、きわめて憂慮すべき事態となっています。感染の急激な拡大が、医療のひっばく、さらに医療崩壊を引き起こし、救える命が失われることが、強く懸念されます。しかし、政府が感染拡大抑止のための実効ある方策を打ち出さず、反対に感染拡大を加速させる危険をもつ「GO TO トラベル」の実施を強行したことは重大です。

現在の感染急拡大を抑止するには、PCR 等検査を文字通り大規模に実施し、陽性者の保護治療を行う以外にありません。

西宮市内では8月6日現在、感染者は212人となり、市民の不安も広がっています。PCR検査については本市でも拡大されつつあり5月13日時点で1日51件だったものが、7月29日には1日175件に達しています。8月18日からは、PCR検査センターも開設されますが、まだまだ感染拡大を抑止し市民の不安を払拭できる規模ではありません。

よって、市当局におかれては、感染拡大を防止し、市民の命と健康、暮らしを守るため、以下の対策を取られるよう緊急に要望します。

- 1、 PCR検査は数値目標を持って拡充すること
 - (1) 集団感染によるリスクが高い、医療機関、介護施設、福祉施設、保育園・幼稚園、学校などの職員、利用者、出入り業者への定期的なPCR検査を行うこと。
 - (2) 東京都世田谷区が新型コロナウイルス感染拡大を抑止するために「誰でも いつでも 何度でも」検査が受けられる体制を目指している。市も検討すること。
- 2、 陽性者の治療、療養については、県が入院、療養施設を一元管理しているが一層拡充、充実を求めること。
- 3、 ホームページではPCR検査数、陽性者数を公表しているが、感染者のプライバシーに配慮しながら①市における感染者の特徴②陽性率③陽性者の保護、治療状況等をも公表すること。